

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

自主・自律・貢献の精神を涵養し、グローバル社会の変化に主体的に対応して、納得して自らの人生を形成できる活力溢れる人材を育成する。

1. 変化する社会を自分の視点で捉え直し、考えが異なる相手にも論理的に意見を主張し、共通の合意を見出すコミュニケーション能力を育成する。
2. 自己実現を図る進路目標の設定と希望進路の実現必達を支援する。
3. 学校行事や部活動等の幅広い体験を通して、知・徳・体の調和のとれた人格を陶冶する。

2 中期的目標

1 「授業で勝負」の理念で、「21世紀型学力」の育成に挑戦

授業力向上の取組みを学校組織として継続し、教科指導研究委員会を中心に、教科指導の質的進化を図る

- (1) 池高型アクティブ・ラーニングの推進
- (2) ICT活用を含め、全教科で一層「わかる喜びが散りばめられた授業」を展開
- (3) 知識・技能定着に加え、発展的学力（思考力・判断力・表現力）や「学び続ける力」の育成

ア 土曜講習や少人数展開授業の充実、着実な知識・技能の習得

イ 朝読書、総合的な学習の時間・HR等の活用による言語活動充実、論理的思考力・課題解決力育成

ウ 自学自習力育成（自習習慣の確立）と自習環境の整備

* 学校教育自己診断において、授業の理解度・満足度ともに、2020年度までに85%をめざす（H29年度：理解度76%・満足度70%）

* 授業評価アンケートの自学自習項目の肯定率：2020年度までに3.0ポイント（満点4.0）をめざす（H29年度2.69ポイント）

2 「志」の育成と生徒全員の進路保証実現

学ぶための「志」を育成し、目標に対して安易な妥協をさせない進路指導を実施する

- (1) キャリア・ガイダンス充実、高大連携企画（大教大府立高校教職コンソーシアム・大阪大学基礎セミナー）や社会人講話の推進
- (2) 進路情報の基礎となる全国模試の全年齢・全員受験推進
- (3) 3年間の進路指導計画充実と、豊富な進路指導情報提供
- (4) 教職員が働き方改革に努め、教職員自らがいきいきと働く姿勢を生徒が感じ、「志」のある進路指導とともに活力溢れる人材育成を行う

* 学校教育自己診断における、進路関係2項目の平均肯定率：2020年度までに90%をめざす（H29年度 平均88%）

* 3年生現役国公立大学合格者が、前年度より上昇することを目標とする（H29年度合格者18%）

3 総合的な「人間力」育成

- (1) 3年間の教育プログラムに基づく生徒育成
- (2) 学習と部活・行事を両立させる生徒育成
- (3) 朝読書の推進やビブリオバトル導入による読書習慣確立、図書館利用の促進
- (4) 教育相談体制充実
- (5) 国際理解教育推進、国際社会を生きる実践的英語力向上

* 学校教育自己診断「勉強と部活の両立」の肯定率の上昇を目標とする（H29年度53%）

* 2020年度までに月2冊以上読書する生徒（2年生）の比率の上昇をめざす（H29年度38%）

4 本校の安全安心基盤、広報体制充実

- (1) 本校独自の災害対策マニュアルの周知徹底
- (2) 老朽化した学校施設・設備の改善
- (3) 中学生生徒に向けた広報活動推進

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>■今年度より生徒、保護者、教職員ともに質問項目を17問に揃えたこともあり、前年度との比較という観点での分析は難しい状況といえる。</p> <p>○3学年平均で肯定率が80%をこえる項目</p> <p>【生徒】池田高校に進学して良かった／学校行くのが楽しい／学校の進路指導や進路に関する情報に納得できる／命や人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある／体育祭や文化祭などの学校行事は、進んで参加し、楽しんでいる</p> <p>【保護者】池田高校に子どもを進学させて良かったと思っている／お子様は学校に行くのを楽しみにしている／学校は適切な生徒指導を行っている／学校は、進路情報の提供を含め、適切な進路指導を行っている／学校は、生徒に命を大切にする心、人権を尊重する意識、社会ルールを守る態度を育てようとしている／保護者として文化祭、体育祭、宿泊行事などの学校行事に満足している／池田高校の授業参観や学校行事に参加したことがある／学校で地震、火災、台風などが起きた場合、どう行動したらよいか、生徒や保護者に周知されている／学校は、教育情報について提供の努力をしている</p> <p>【教職員】生徒の多くが池田高校に進学して良かったと思っていることが、実感できる／生徒指導において、家庭や関係機関との連携ができていて／コンピュータ等のICT機器が、授業などで活用されている／教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教員とも相談することができる／学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている／教育活動に必要な情報について、ホームページ等を活用して、生徒・保護者や地域への周知に努めている</p> <p>分析</p> <p>・肯定率が減少傾向にある、或いは60%台なものが「授業に関する項目」にあるが、6月の地震に始まった自然災害による授業日への影響、池高型アクティブラーニングに対する教員の共通認識のズレも一因と考えられる。</p>	<p>■第1回（平成30年7月5日開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度より「学校運営協議会」となったことを受け、実施要項を確認した ・校長着任により、平成30年度学校経営計画について詳しく説明をし、概ねこれまでを引き継ぎ、新たな工夫を加えて進化をめざす方向を了承していただいた ・土曜講習の在り方やICT機器の活用、そして保護者への情報発信等に関してのご要望やご意見を検討材料としていく⇔生徒への取組みと同時に教職員の働き方の見直し <p>■第2回（平成30年11月20日開催） *授業見学も実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営計画の進捗状況について校長作成資料を基に協議をおこなった ・授業見学後、ICT機器の積極的採用に感心されつつ、教室のLED照明化や黒板の塗り替え等のアドバイスもあった ・予習をしてきたことが必要な授業展開をめざし、予習の喜びを感じられることが自学自習の意識向上につながると思う、との指摘をいただいた ・経験した自然災害を活かし危機意識の向上、防災への関心を高めることへの取組みを評価していただいた ・学校教育自己診断項目数の精査に伴う見直しを確認、了承していただいた ・平成31年度の採択済み教科書を閲覧してもらい、確認・了承していただいた <p>■第3回（平成31年2月20日開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と比べて実施時期や条件等の違いが多少あっても伸びている数値は、評価できると考える（GTECの平均点がよく伸びているので評価○を◎にしてはどうか） ・学校教育自己診断では、肯定率での分析がほとんどであるが、例えば「自分の悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」という項目で、[そう思わない]と否定的に回答している生徒が数%であっても見逃すべきではない。 ・学校経営計画に人権教育に関する視点とわかる項目がないように思う。将来、社会の指導者になる可能性が高い生徒と思う池田高校において、人権教育にも積極的に取り組むべきであり、取り組んでいるはずなので記載しておいた方が良い。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
二十世紀型学力育成に挑戦	(1) 池高型アクティブ・ラーニング推進	(1) アクティブ・ラーニング推進 ① 教科指導研究委員会を中心とした授業改善の取組み推進(アクティブ・ラーニング研究会発足) ② ディベート取組み推進 ③ 生徒の授業参画意識を促進する指導の工夫・改善	① 授業アンケートの「興味・関心」「理解度」各3.1P以上 (前年度 各3.04, 3.07P) ② 4教科以上でディベート取組み ③ 学校教育自己診断(生徒)の「自分の考えをまとめたり、発表することが多い」の肯定率70%以上 (前年度67%)	① 1回目は前年度を上回ったが、今年度も3.1p以上にはならなかった(△) [H30: 各3.04 3.06] ② 前年度を踏襲できた(O) ③ 前年度を大きく下回る結果となった(51%) これまでの池高型アクティブ・ラーニングの定着が課題(△)
	(2) ICT活用と「わかる喜びが散りばめられた授業」の展開	(2) ICT活用と「わかる喜びが散りばめられた授業」の展開 ① ICT利用教員数増加、そのためのICT環境の整備改善。教材・情報共有化により教員の業務効率化を図る。 ② 教科毎及び学校全体の公開授業実施 ③ 教員間の互見授業推進 ④ 授業評価に課題がある教員は授業改善シート等を活用し改善努力。授業全般に生徒理解度を上げる。	① ICT活用教員目標70%以上 (前年度: 62%) ② 公開授業週間を年間2回以上設定 ③ 授業互見回数一人平均2回以上 ④ 授業評価「知識・技能が身についた」3P以上の教員比率85%以上 (前年度80%) ・学校教育自己診断(生徒)肯定率「授業はよく理解できる」78%以上 1:(前年度76%) 「教え方に工夫をしている先生が多い」75%以上 2:(前年度72%)	① 目標には届かなかったが前年度よりはアップした(63.1%) (O) ②③ これまでを踏襲できたが、曜日変更も多くあり見学実態の達成は難しい現状であった ④ それぞれの項目で評価指標が前年度を下回った(△) 授業アンケート 教員比率: 73% 自己診断 肯定率1: 68% 肯定率2: 64% *「知識・技能が身に付いた」学校平均 1回目[H29:3.04 → H30:3.07] 2回目[H29:3.07 → H30:3.06]
	(3) 知識・技能の定着、発展的学力や学び続ける力の育成。 ア 土曜講習や少人数展開授業充実 イ 言語活動充実、論理的思考力・課題解決力育成。 ウ 自学自習力育成と自習環境の整備。	(3) 知識・技能定着、発展的学力・学び続ける力の育成 ア 土曜講習や少人数展開授業充実 ① 土曜講習・課外講習・補習の内容精選、年間を通じた計画的補習実施 ② 英語少人数授業の充実による学力向上 イ 言語活動充実、論理的思考力・課題解決力育成 ① スピーチコンテスト、ディベート、エッセイ作成等、生徒自身によるアウトプットの機会を捻出 ウ 自学自習力育成と自習環境の整備 ① チューター制度推進等、生徒の自習機会増加 自習室は平日夜間(放課後~19:30) 土曜日(9:00~16:00) 開室 ② 新入生対象(勉強方法)オリエンテーション実施。自学自習の方法を指導 ③ 家庭学習量調査、自己学習時間増加 ④ 夏期学習合宿(自主合宿)実施	ア 土曜講習や少人数展開授業充実 ① 土曜講習出席者目標: 2年・3年各300名以上 ② センター試験英語平均点: 73%以上 (前年度70%) イ 言語活動充実、論理的思考力・課題解決力育成 ① 生徒による自己表現の取組機会を年間2回以上設定する。 ウ 自学自習力育成と自習環境の整備。 ① 放課後の自習生徒数前年比+10% (前年度+36%) ② 授業アンケート: 自学自習2.75P以上 (前年度2.69P) ③ 自主学習1日2時間以上の生徒数比率50%以上(前年度44%) ④ 自主合宿参加生徒数: 30名以上(前年度15名)、及び学校施設を利用した新規の勉強合宿企画・開催	ア ① 土曜講習申込み者数 2年: 362名(O) 3年: 145名(△) ② 英語、リスニングともに全国平均を大きく上回る結果であった(O) イ ① 英語スピーチやビブリオバトルなど前年度を踏襲した実践ができた。 ウ ① 自習室(承風ホール)の利用数だけでみると減少しているが、自然災害の影響は否めない(△) ② 1回目2.75p、2回目2.77pと評価指標を上回った(O) 1回目[H29:2.64 → H30:2.75] 2回目[H29:2.69 → H30:2.77] ③ 40%となり前年度を下回った(△) ④ 前年度夏期休業中に実施したが、要望もあり今年度は春季休業中の実施で募集したが開催決行人数を下回り実施できなかった(△)
「志」の育成と全員の希望進路実現	(1) キャリアガイダンス充実	(1) キャリアガイダンス充実 ① 大学見学会、学部学科説明会、教育実習生懇談会等実施(特に生徒のロールモデルとなる社会人講話を拡大して実施) ② 大教大府立高校教職コンソーシアム活用 ③ 大阪大学基礎セミナー受講促進	① 社会人講話の充実 ② 大教大「教師の学び舎」に3名以上の教員を派遣(前年度2名) ③ 大阪大学基礎セミナー受講生徒5名以上(前年度0名)	① 様々な工夫を行い充実できた(O) ② 多忙な日常において、2名の派遣ができた(O) ③ 受講生1名であったが、参加者がいたことは評価できる
	(2) 全国模試の全学年・全員受験推進	(2) 全国模試の全学年・全員受験推進 ① 学力指標としての全国模試等の、全学年全員受験を推進する。	① 1, 2年各2回、3年4回全国模試受験 生徒受験率100%	① 前年度と同様、生徒受験率100% (O)
	(3) 進路指導充実	(3) 進路指導充実 ① 3年間の進路指導計画(MAP)策定と計画的な進路情報提供 ② 3年生向け特別講習の充実等を背景とする進路実績向上	① 学校教育自己診断(生徒)「学校の進路指導や進路に関する情報に納得できる」の肯定率: 88%以上(前年度86%) ② 現役国公立合格者: 学年の23%以上(前年度18%)	① 同項目の肯定率は83%と前年度を下回る結果ではあったが、新入試学年の1年もいる現状では評価できる結果と考える(O) ② 平成30年度末結果: 16%(△) 国公立出願者のうち合格者: 30.5%

総合的な「人間力」育成	(1) 3年間の教育（生徒育成）プログラム継続実施	(1) 3年間の教育（生徒育成）プログラム ① 3年間の時期に応じた育成ポイントを設定、特に自主自律を推進する施策を各分掌・学年で企画する。 ② 3年間のプログラムの中で生活指導の重点ポイント（登校指導期間、挨拶励行指導時期、通学マナー指導期間等）を設定、生活習慣や規律規範を確立させる。	①「自主・自律・貢献」の生徒育成を図る具体策を各分掌・学年で1つ以上企画のうえ推進する。 ②学校教育自己診断（生徒）「学校生活についての先生の指導は納得できる」：肯定率 75%以上（前年度 72%） 学校教育自己診断（教員）「生徒指導において家族や関係機関との連携ができています」：肯定率 85%以上（前年度 82%）	①自然災害も多々起こり、通常の授業日設定も難しい現状が推進できなかった理由と考える ②どちらの項目も前年度を下回った（△）生徒肯定率：66% 教員肯定率：81% *昨年度と比べて、自然災害による授業日や行事の変更が多く、生徒の声が反映されにくい状況の影響もあると考えられる
	(2) 学習と部活・行事の両立	(2) 学習と部活・行事の両立 ① 自学自習プロジェクトチーム中心に学習・部活両立に向けた取組み推進 ② 部活の活性化、生徒の活躍推奨	① 学校教育自己診断（生徒）「勉強と部活の両立」の肯定率の上昇（前年度 53%） ② 部活動加入率 90%以上（前年度 90%） 団体又は個人で近畿大会以上の出場を果たす	①前年度と肯定率は同じであったが、漠然と「両立できたか」と問いかけていることを考えなおさなければならぬ（△） ②部活動加入率は 88.9%であったが、近畿大会出場の部活もあった（○）
	(3) 読書習慣確立	(3) 読書習慣確立 ① 朝読書推進、ビブリオバトル実施等により、生徒の読書意欲を高揚させる。 ② 図書室利用の推進、その為の図書館施設見直し	① 月間平均2冊以上読書する生徒比率 40%以上（前年度 36%） ② 図書室貸出冊数前年比 5%以上増加（前年度は+39%）	①今年度は 32%で前年度を下回った（△）朝読への工夫が必要と考えている ②貸出冊数も減少傾向だったのは、自然災害によるスケジュール変化も大きいと考えられる（△）
	(4) 教育相談体制充実	(4) 教育相談体制充実 ① 教育相談体制やスクール・カウンセラー相談日の周知徹底。教育相談委員会を年間 10 回実施。	①学校教育自己診断（生徒）「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」 75%以上（前年度 73%）	①学校体制はうまく機能できていると言えるが、自己診断の該当項目の肯定率は 71%であった ・「学校はいじめで（子どもが困っている／私たちが困っている）ことがあれば真剣に対応してくれる (保護者) H29:81% →H30:88% (生徒) H29:81% →H30:79%
	(5) 国際理解教育推進、実践的英語力向上	(5) 国際理解教育推進、実践的英語力向上 ① 従来のオーストラリア語学研修を継続し、1年生対象に国際理解教養講座を実施 ② LL 教室や外国人講師との英会話、ランチミーティング等、英語 4 技能の能力向上に努める	① 語学研修生派遣人数目標 オーストラリア研修 30 名（/1 年 9 クラス）以上派遣（前年 31 名/1 年 10 クラス） ・語学研修実施後の生徒満足度（肯定率）：95%以上（前年度 100%） ②GTEC 平均得点目標 2 年生 465 点以上（前年度 456 点）	①今年度も 30 名の派遣で、満足度（肯定率）は 100%であった（○） ②GTEC の平均点は 486 点で前年度をかなり上回った（◎）また、WPM（1 分間に読むことができる語数）も前年度 73.8 から 81.5 と飛躍的に伸びた（◎）
学校安全基盤・広報体制の充実	(1) 本校独自の災害対策マニュアル周知徹底	(1) 本校独自の災害対策マニュアル周知徹底 ① 策定した生徒用災害対策マニュアルを活用し、避難訓練等による更なる周知徹底に努める。	① 学校教育自己診断（生徒）アンケート「災害に対して具体的な行動を知らされている」 80%以上（前年度 76%）	①実際に地震が起こり、避難訓練をしてよかったの声もあり、自己診断の該当項目が 77%だったのは前年度と比べても変わらないことは評価できる（○）
	(2) 老朽化した学校施設・設備の改善	(2) 老朽化した学校施設・設備の改善 ① 学校施設に関する年間改善計画策定 ② 生徒（自治会）の協力による学校環境改善	① 改善計画の中に、HR 教室の壁改修や台風で破損したクラブ部室の改善等を入れる。 ② 生徒自治会による学校環境改善提案と、それを受けた改善案検討	①②新たな自然災害で破損した箇所の修理は本校だけではなく大阪府全体に影響を及ぼし、改善したと言える状況とは言えない（△）
	(3) 中学生徒にむけた広報活動推進	(3) 中学生徒向け広報活動推進 ① オープンスクールや学校見学会に生徒自治会関与を増やし、本校生徒による中学生向け PR を推進する。	①オープンスクールと学校見学会合計 1300 名以上招致（前年度 1298 名） ② 本校生徒が広報活動に一層参加できる企画立案・推進	①繰り返し来校してくださる方も含め述べ人数では 1961 名の来場者で目標を大きく上回った（◎） ②例年通りを踏襲するに留まった（○）